7/3 東福

桜を見る会 問題点解説

福井 田村参院議員参加し集会

安倍晋三首相主催の「桜を見る会」の問題を巡り、疑惑の追及を求める「『桜』を逃がすな！福井県民集会」が二日、福井市のフェニックス・プラザで開かれた。国会で追及の中心となっている共産党の田村智子参院議員が問題点を解説し「安倍首相が自分の支援者を増やすために桜を見る会を利用した構図は明らかだ」と強調した。

市民団体や政党でつくる「戦争する国づくり反対！福井総がかりアクション」（屋敷紘美代表）が主催。約五百人が参加し、立憲民主、国民民主、共産、社民の野党各県連からも代表者が参加した。

田村氏は二〇一八年四月の桜を見る会に自民党の地方議員が多数招かれたことが、同年九月の自民党総裁選に向けた地方票対策だったと指摘。「桜を見る会が、安倍氏が総理大臣の座に居座るために使われた」と強調した。招待者名簿が破棄されたことなどの公文書管理の問題については「（説明の）破綻が見えてきている」と述べ、野党が連携して追及することがさらに必要だとした。斉木武志衆院議員の報告もあり、九州電力玄海原発のある佐賀県玄海町の町長に敦賀市の建設会社が現金を渡していた問題などに触れて「立地の国会議員や首長に電力会社や下請け企業が献金できなくするべきだ」と訴えた。（今井智文）

「桜を見る会」問題を解説する田村参院議員＝福井市のフェニックス・プラザで